

# 防災フィット

BOUSAI FIT



スッキリとした形状は、屋根にシャープな印象を与えます。

  
MARUSUGI

シンプルな形状でオシャレな外観に。



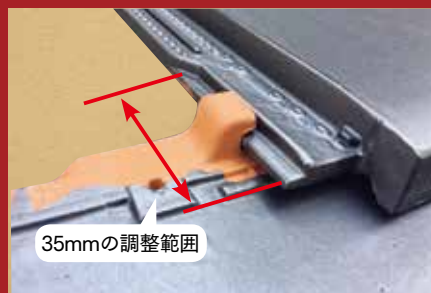
## 地震、台風に強い!

● 進化した耐風性能



吹き上がりの際に斜め下方に傾斜した防災フック部が防災ロック部上面を面で押さえます。従来の防災構造と比べ、面で係合するためフック部の応力集中を軽減し、耐風性能を向上させました。この新構造で特許を取得しています。(PAT No. 特許第5782652号)

● 働き長さの可変性能



働き長さの調整範囲が35mmと非常に大きな調整範囲です。35mmの働き長さ調整は、流れ長さで8段以上流れがあれば、棧木ピッチの調整で瓦の切断を不要にすることが出来ます。施工の簡略化及び廃材量の削減で効果を発揮します。

● 見える安心・安全性能



防災部にどれだけ係合させるかで耐風性能が変化し、決定します。施工時に葺きあげ基準線に合わせて施工することで、確実に耐風・耐震性能を発揮することが出来ます。防災フックが施工時に見えることが、安心で安全な屋根を作り上げます。

「防災フィットは震度7クラスの地震や最大瞬間風速60m/sクラスの台風にも十分に耐え得る性能の防災瓦です。屋根面全体で安心性能を向上させた特許工法<sup>(※)</sup>「i-Netモジュール工法」は、棧瓦の防災機能をより一層活かします。屋根は地震力よりも風圧力の方が影響を強く受けます。地球温暖化の影響から大型台風の脅威に毎年さらされる中、防災フィットをお使いいただければ、安心で安全な屋根を提供できます。

i-Netモジュール工法の特許番号 特許第5959128号

i-Netモジュール工法とは、日本の建物モジュール(尺)と瓦のモジュール寸法を合わせることで、建築現場での瓦加工を大幅に減らし、建築現場での施工効率を飛躍的に向上させる施工方法です。

### i-Netモジュール工法による3つのベネフィット

- ① 建築現場での施工性が飛躍的に向上し屋根工事の生産性が向上
- ② 規格プレカット瓦を使うことで建築現場での廃材をほぼゼロに
- ③ 屋根全体で防災瓦の係合構造が使えるため、防災性能が向上し、長期にわたり災害から屋根を守る

# カラーバリエーション

Color variation



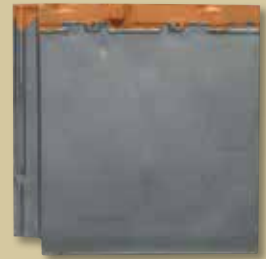
銀富士



ストレートブラック



マットブラウン



昴

# 役物バリエーション

Role product variations

## 寄棟部



対応色:ストレートブラック・銀富士・マットブラウン

i-Net隅瓦

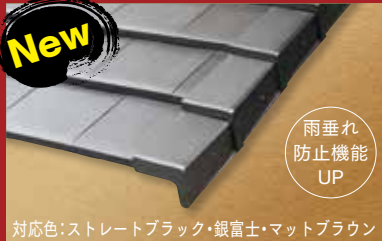


素三角

## 雪止瓦

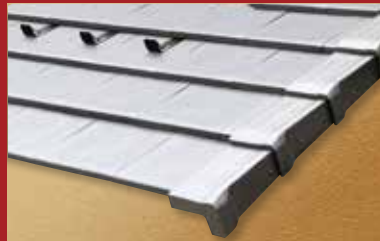


## 切妻部

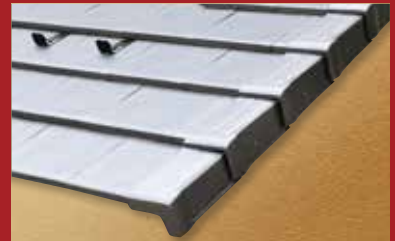


対応色:ストレートブラック・銀富士・マットブラウン

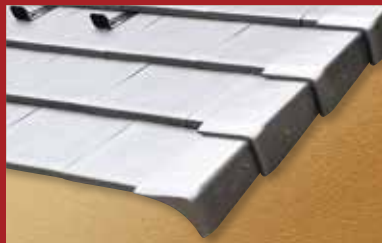
i-Net袖



紐袖



幅広袖



兼用袖



一体袖



## 雪止金具

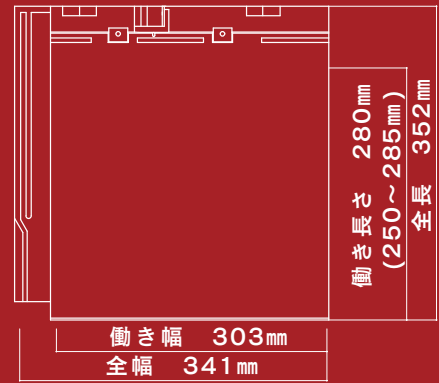




## 製品仕様

全長	352mm	全幅	341mm
働き長さ	280mm(250~285mm)	働き幅	303mm
重量	3.7kg/枚(44.4kg/㎡)	勾配	3.5寸勾配以上
葺き枚数	約12枚/㎡(約40枚/坪)		
梱包枚数	324枚/パレット		

※上記の働き長さは横棧木のピッチを表しております。実際の瓦表面の働き長さは2~3mm短くなります。



## 標準屋根勾配及びその流れ長さ

標準屋根勾配	3.5寸	4.0寸	4.5寸	5.0寸	5.5寸
その流れ長さ	8m	10m	12m	15m	17m

【注】 1.これは防災フィットを安心してお使い頂くための標準値です。  
2.上記以外の屋根勾配の時はご相談ください。  
3.施工時には雨水の浸入に十分な配慮して頂きます様をお願いします。

## 製品に関するお願い

### 粘土瓦の特性について

瓦は天然原料である自然の粘土を原料とした大型厚物焼成品です。粘土は採取場所により、その成分・性質は微妙に異なり、また同一場所の採取でも全く均一ではありません。このように瓦は原料自体が均質化された工業原料ではなく、自然から生まれた生きた粘土を使うため、それ自体が機械化に向くようにできていない、科学的な管理が難しい焼成品です。日本の瓦は約1000年以上前から作られてきましたが、製造技術・焼成技術が飛躍的に進歩し、大量生産できるようになった現在でも「瓦は天然原料を使った自然素材である」ことをご理解いただき、この特性をあらかじめご承知置き下さい。

- 粘土成分の違いや気圧など気象条件による焼成窯内雰囲気の変化により、微妙な色ムラが発生している場合があります。
- 焼きものの特有の若干のネジレや寸法のバラツキがある場合があります。また瓦は重ね合わせて施工していきますので、葺き上げ後に瓦と瓦の間にスキマが発生することがあります。
- 施工後、日焼けによる色あせやホコリの付着などによる色合いの変化が発生する場合がありますが、屋根材としての品質・性能および耐久性を損なうものではありません。
- 陶器瓦(釉薬瓦)は貫入(かんにゅう)と呼ばれる表面亀裂が発生しますが、これは陶器製品特有の釉薬表面層に発生する亀裂であり、本体生地までの亀裂ではなく品質の劣化を伴うものではありません。
- 陶器瓦(釉薬瓦)には釉薬面にピンホールと呼ばれる小さいへこみや粘土素地の露出が発生している場合があります。釉薬の気泡や粘土に含まれる有機物などが燃焼して発生するものですが、焼きものとして、また屋根材としての品質上の問題は一切ありません。

### 不燃材料認定について

建築基準法第2条9項に基づき国土交通省告示1400号に瓦は不燃材料として定められています。1100℃以上の高温で焼き固められているので通常の火災に対して燃焼、変形、溶解、亀裂、有害なガスの発生はありません。

※建築確認申請の不燃材料国土交通大臣認定番号は、「国土交通省告示第1400号にて認定」と記載してください。

## 安全に関するご注意

- 葺き上げた瓦屋根に乘られたり、屋根の上で作業をされる際に、瓦へ乗る位置によって、割れ・カケの原因となります。必ず専門工事業者に相談されるか、養生板等を使用するなどして、割れ・カケへの防止処置を施して下さい。
- 粘土瓦の施工には専門の工事が必要です。専門工事業者にご相談ください。工事に不備があると、落下・雨漏り等の原因になることがあります。
- 寒冷積雪地域あるいは強風地域では、特殊な工事を必要とする場合があります。こうした地域で粘土瓦を使う場合には、専門工事業者にご相談ください。
- 粘土瓦を使った屋根は、関連する工事標準仕様書に基づいて設計してください。特殊な設計を行う場合は、専門工事業者にご相談ください。

## マルスギからのお願い

膨大な実験データに基づき耐震性、耐風性を飛躍的にアップさせた施工基準  
「ガイドライン工法」  
巨大地震にも耐える耐震工法です。

本来の性能が十分に発揮される  
ガイドライン工法を強くオススメします。

※このカタログの内容は2019年4月現在のものです。  
※写真は、撮影、印刷インキの関係で実際の色と異なることもあります。  
※本仕様は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。  
※カタログに掲載した写真・イラストには、一部標準外仕様が含まれています。  
又、商品改良のため仕様を変更することがあります。

## 製造・販売

MARUSUGI マルスギ株式会社

マルスギは、全国 NO.1 ブランド「三州瓦」のトップメーカーです。

愛知県碧南市と高浜市に2ヵ所の生産工場と、5つの営業所で三州瓦を製造販売しています。創業大正2年から、伝統ある地場産業を守り、最先端の技術を駆使してお客様のご要望にお応えし続けています。

〒444-1314 愛知県高浜市論地町4丁目2番地30 <http://www.marusugi.co.jp>  
TEL:0566-52-0211 FAX:0566-54-5404  
E-Mail:info@marusugi.co.jp

マルスギ 検索 登録番号 136

碧南工場  
〒447-0055 愛知県碧南市浜尾町1-62  
TEL:0566-42-6667 FAX:0566-54-5404

仙北営業所  
〒981-0501 宮城県東松島市赤井寺48  
TEL:0225-83-2159 FAX:0225-82-1795

福島営業所  
〒979-0141 福島県いわき市勿来町窪田道作59-2  
TEL:0246-65-7877 FAX:0246-65-7542

北関東営業所  
〒323-0805 栃木県小山町向野981-7  
TEL:0285-49-1555 FAX:0285-49-1558

北陸営業所  
〒939-1502 富山県南砺市野尻1555  
TEL:0763-22-7624 FAX:0763-22-7625

九州営業所  
〒811-0201 福岡県福岡市東区三苦1丁目3-50  
スターライズ201号  
TEL:092-410-2709 FAX:092-410-2715

マルスギ運輸(株)  
〒447-0055 愛知県碧南市浜尾町1-62  
TEL:0566-48-2721

## 販売特約店

